

平和とよりよき生活のために

広島の せいきょう

2009年 新年号(第25号) 2009年1月1日
広島県生活協同組合連合会発行
〒730-0802
広島市中区本川町二丁目6-11
第7ウエノヤビル5F
TEL 082-532-1300
FAX 082-232-8100
E-mail:kenren.h@proof.ocn.ne.jp
URL:http://kenren.jccu.coop/hiroshima/

広島県生協連 2009年 新年ごあいさつ



富田会長理事

新年明けましておめでとうございます。

ご承知のとおり、昨年は米国のサブプライムローンの破綻に端を発した世界同時金融危機により、国内外とも未曾有の経済混乱に陥りました。私たちのくらしの面でも収入が減少する中で、身近な生活必需品の値上がりや、公共料金などの負担も増大しており、家計のやりくりは大変な状況にあります。こうした中で、生協の経営も組合員のくらしの実態を反映して、厳しさを加えてきているのが現実です。

今年も厳しい経済社会環境が続くものと予測されており、生協事業を通して組合員の切実なくらしの願いに応えていくとともに、平和な地域社会づくりのために生協の果たす社会的役割は、ますます大きくなってきているところです。

特に平和活動では、2010年5月の核拡散防止条約再検討会議の前年に当たります。この世界中から核兵器を無くし、緑の地球を子供たちに残していく道筋をつけていくために、同会議の成功は是非とも実現しなければなりません。私たちはこの一年、行政はじめ広範な諸団体や人々とも連携しながら、核兵器のない世界の実現を目指して、積極的な行動を展開していく決意です。

今年も会員生協の皆さんの一層のご活躍をご期待申し上げ、ご挨拶といたします。

生協法制定60周年記念 第37回 広島県生協大会 10/22

広島県生協大会の式典では、富田会長理事より、生協法60周年にあたって、生協が今後も社会的責任を果たすことを求められており、食の安全や地産地消など社会的課題に取り組むと挨拶しました。

藤田広島県知事、秋葉広島市長(代理 島本広島市市民局長)、そして岸房JA広島中央会専務理事を迎えて、ご挨拶を頂戴いたしました。みなさまからは、食の安全など課題が提起され、今後も県連の活動を期待すると励ましをいただきました。

式典終了後、広島県知事表彰では、4名の方が表彰を受け、会員生協からは3名の方が表彰を受けられました。



会員生協受賞者

- 齋藤 紀 様 (広島中央保健生活協同組合福島生協病院名誉院長)
- 原田 弘子 様 (生協ひろしま、コープサービス株式会社常務取締役)
- 柏原 直行 様 (日立造船因島生活協同組合常務理事)

次に活動報告です。広島医療生協の三戸さんからは、減災の取り組みの紹介があり、認知症サポーターを養成して、取り組みを広げたいと報告されました。生協ひろしまの安宅さんから、コープ五日市北のちびっこひろぼで、これまで利用者が参加しやすいように工夫し、利用者も着実に増えていることが報告されました。



生協大会の最後は記念講演です。

京都府立大学教授 上掛利博さんに、ご講演いただきました。北欧各国の福祉社会について説明いただき、フィンランドの学力が高い子が育つ教育現場の映像も見せていただきました。最後に地域（協同＝人と人のつながり）で「福祉を創る」意味について、お話いただき講演を終わりました。



県連の活動

2020ピジョンキャンペーンの取り組み

- 生協大会終了後、「都市を攻撃目標にするな (Cities Are Not Targets) プロジェクト」核兵器の攻撃目標の解除と核兵器廃絶を求める要請書の街頭署名に取り組みました。平和市長会議の事務局から2名、組合員20名で実施し、署名は149筆集まりました。家族連れ、友達同士、若い方から高齢の方まで、こちらの呼びかけに快くこたえて署名していただきました。
- 平和市長会議はCANT署名の第一次として10月27日に、会長である秋葉広島市長が国連総会議長と会い、370,221筆の署名用紙を手渡しました。その署名のうち30万筆は全国の生協が集めたものです（うち、広島県生協連10万筆）。



「2009新春・平和のつどい」のご案内

日 時：2009年1月8日（水）10:00～12:00

会 場：広島平和記念資料館（東館B1F）メモリアルホール

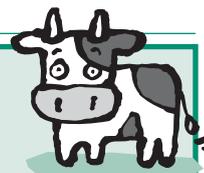
内 容：講演と全国の生協の活動報告、平和の歌の合唱など

テーマ：『核兵器のない平和な世界を目指して ～21世紀は、市民の力で問題を解決できる時代～』

講 師：秋葉忠利 広島市長

定 員：300人（多くの組合員のみなさんの参加をお待ちしています）

※入場無料、託児あります。



県連福祉事業推進協議会 広島県と懇談 12月4日（木）於：広島県消費生活課研修室

後期高齢者医療制度の現状について、広島県医療保険課の責任者及び担当者と懇談を持ちました。広島県からは後期高齢者制度の最新の内容について説明があり、各医療生協から、患者、組合員の実態について報告しました。

広島医療生協からは、患者さんが療養型病院への転院を断られた事例を報告しました。療養型病院では包括点数を超える治療を要する患者さんは、受け入れられないためです。また福山医療生協からは、終末期の在宅の受け入れの要請が多々あり、もう限界の状態であることや広域連合になってからのレセプト請求の対応の悪さを指摘しました。広島中央保健生協からは、現場で制度説明に追われ、1,000人を対象に説明会を行ったほか、保険証が変わったために保険証の確認に追われるトラブルなど、本来業務でないことに相当の時間を割かざるをえなかったことを報告しました。

広島県からは広報が一番問題であり、パンフの改定や保険証も確実に届くために配達証明で送るなどの対応をしており、今後さらに説明責任を果たすよう努力したいと述べられました。

最後に資格証明書の発行について協議しました。その交付の判断は広域連合が行い、まず短期保険証の発行、そして面談・督促、滞納のままであれば資格証明書発行となります。「一旦10割を病院の窓口で払いその後返還となるが、福山市ではそのうち4割を返還し、後は6割滞納分の返済にあてると言っている。これではみな病院に行かなくなる」という意見が出されました。

課題は山積されており、福祉事業推進協議会では、今後も広島県や広域連合などとの懇談を引き続き行うことを確認しました。

第3回 生協福祉学習交流会のご案内

日 時：2009年3月14日（土）13:30～16:30

会 場：広島市まちづくり市民交流プラザ 5F研修室

内 容：講演と交流分散会

講演テーマ：「ストレスを和らげる人間関係」

講 師：福岡県立大学准教授 上野行良さん

参加対象：福祉の事業部門で働く方のほか、講演（13:30～15:00）については組合員の方の参加も可能です。

消費者のつどい 2008

11月26日(水) 参加180名
【主催:広島県・広島県消費者団体連絡協議会】

今回の記念講演は、『食の安全情報を読み解く』と題してフリーの科学ライターの松永和紀さんにお話いただきました。はじめに「朝バナナダイエット」を例に、日ごろマスコミで取り上げられる情報にいかにか消費者が振り回されているか、具体的に説明されました。中国産冷凍ギョウザ報道についても、専門家の間では残留農薬ではなく犯罪などによる高濃度汚染を想定されていたが、マスコミは当初から残留農薬の可能性を考えて、中国での農薬散布などセンセーショナルに報道したために、消費者の中国産に対する拒否反応が出ていること、実際には中国産の品質は急上昇しており、国産を凌ぐものが数多く出てきていると指摘されました。「食の安心・安全と言うけれども、安全とは科学的・技術的に評価した結果、得られるもので、安心は信条、受け止め方であり、安全と安心を混同してはならない」と説明されました。

最後に食の安全は総合的に判断するものであり、「マスコミは多様な事実のなかで一部だけセンセーショナルに報道するもので、特定の誰かに都合のよい情報だけが発信され続け、拡大し、やがて定説になっていく。受け身を脱して科学の読み書きそろばん力をつけよう」と呼びかけられました。

参加者はいかにマスコミの情報に左右されているか、また安全と安心の混同している事実気付かされ、日ごろから事実は何かを見極める力を付けたいといけなと感じさせられた講演でした。



消費者団体による活動報告

◆広島県消費者団体連絡協議会 「環境と食の安全について」の意識調査

報告者 呉市消費者協議会会長
羽倉幸子さん

◆広島県生活協同組合連合会 「ちいさなエコ」実践しています

報告者 広島県生協連コープアドバイザー
桜井陽子さん

住まいのセミナー 2008

①7/26 ②8/23 ③9/27 ④10/25 ⑤11/22 全5回
【主催:木の香る住宅工房・広島県生協連】

“安全・安心な住まいづくり”と“環境保全”を一緒に考える「住まいのセミナー」は今年で10回目を迎えました。講師は、木の香る住宅工房のメンバーが勤めました。今年は組合員さんから、事前にヒアリングを行いました。実際の家づくりについて現地を見たいという要望もあり、実際に建てられた方のお話、そして木の乾燥や製材工場、さらに木の伐採現場の見学(山のセミナー)など2回の野外セミナーを実施しました。製材工場の工場見学ではイスづくりにも挑戦しました。参加されたみなさんは、時間を忘れて熱中していました。また、山のセミナーでは樹齢80年を超えるひのきの伐採を見学したほか、「工房の森」でひのきと芝栗の植林、下草刈りをしました。マンション住まいでも木を取り入れたいという要望もあって、リフォームもテーマに取り上げました。参加者には大変好評で、木の大切さ、山の自然の良さを実感でき本当によかったとの声をいただきました。



「つくってみようよ! 自分の朝ごはん」

10月26日(日) 広島フードフェスティバル会場

広島県と(財)ひろしま子ども夢財団共催で行った「つくってみようよ!自分の朝ごはん」に県生協連が審査員として参加しました。白いごはんを中心に日本の伝統的なおかずで1週間分の朝食を作った庄原市の小学5年生の松本さんに優秀賞をおくりました。

「消費者行政一元化」実現!要請街頭行動

11月20日(木) 基町クレド広場前

「消費者庁」実現に向けて関連法案が国会に上程されているものの、今の政治情勢では「消費者行政一元化」は先行き不透明な状態です。そこで、地方の消費者行政の充実、消費者行政の一元化の実現を求める市民の声を国に届けるために、11月20日(木)、広島弁護士会の呼びかけで、広島県生協連、広島県消団連、消費者ネット広島共催で、街頭行動を行いました。

『原油・生産資材高騰対策広島県農林漁業者』緊急集会

10月28日(火) 国際会議場
【主催:広島県農協農政協議会】

国や県に対して、生産者の経営安定をはかる対策を求めるために緊急の集会が開かれました。広島県生協連は消費者の立場から参加しました。各生産者が厳しい現状を報告し、原油・生産資材高騰対策を国に求める訴えをしました。富田会長理事は最後に消費者を代表して、「食料の安全確保のためには、生産者の経営安定がかかせない」と発言し、最後に集会をしめくくる「がんばろう」三唱をリードしました。集会終了後はパレードです。幟やプラカードを持って、平和公園からアリスガーデンまで、生産材高騰対策、食糧自給率向上、地産地消などを訴えて歩きました。





広島県労働者共済生協 (全労済広島県本部) 創立50周年記念

全労済 サンクスフェスタ開催

広島労済(全労済広島県本部)は、2009年1月に創立50周年を迎えます。
2008年度、協力団体・組合員の皆さまと喜びを分かち合える50周年記念事業として、「ありがとうございます」「これからもよろしくお願いします」をテーマに2008年11月3日・30日広島・福山で「全労済サンクスフェスタ」を開催しました。会場内にはステージや遊び・飲食のゾーンなどがあり、お笑いライブやキャラクターショー・チャリティーオークションなど、多くの皆さまに秋の一日をお楽しみいただきました。

2日間で
約7,000人の皆さまに
ご参加いただきました

- ◆ 広島会場 2008年11月 3日(月・祝) 広島県立産業会館 西館
- ◆ 福山会場 2008年11月30日(日) ビッグ・ローズ(広島県立ふくやま産業交流館)



◆ 学校生協設立60周年 ◆

広島県学校生協は本年設立60周年を迎えました。12月12日には広島県行政をはじめ、生協関係者、取引商社、そして退職役員等の皆様方にお集まりいただき記念祝賀会を開催いたしました。

学校生協が設立された当時は敗戦直後の混乱のなかで物資の不足は深刻でした。設立趣意書には教職員、児童生徒の窮乏が学校教育にも影響している様子が綴られています。60年間を振り返りますと、その歩みは戦後の混乱期、高度経済成長期、オイルショック、バブル期を経て現在に至るまで、その時代時代の社会・経済状況と密接に関わっています。これまで学校生協の運営に関わって数々の課題を乗り越えてこられた先輩役員の方々の皆様のご苦労に頭の下がる思いです。

生協活動には、かつての物不足の時代から変化して、今日では「安全・安心」をキーワードにして組合員の皆様の期待が高まっています。最近の相次ぐ食品の事件・事故では、生協に対する厳しいご意見もいただきます。60周年を契機として学校生協設立の原点に立ち返り、組合員の生活要求に応えより信頼される生協をめざし、次の70周年、80周年に向けて取り組みたいと思います。



研本理事長と来賓のみなさん



会場の様子



ミニコンサート